

講義要綱

2026年度

夜間課程 1学年

学年担任 森田 敬介



専門学校

医学アカデミー
理学療法学科

Igaku Academy Physical Therapies

目次

夜間課程 単位表	4
夜間課程 1学年	
医学英語 I	5
情報科学・プレゼンテーション	6
医療の歴史と倫理	7
理学療法の職域と位置付け	8
心理	9
人間関係・コミュニケーション論 I	10
保健体育 I	11
公衆衛生	12
人体の構造と機能 総論	13
人体の構造と機能 各論 I (神経系の構造)	14
人体の構造と機能 各論 II (神経系の機能)	15
人体の構造と機能 各論 III (運動器系の構造)	16
人体の構造と機能 各論 IV (運動器系の機能)	17
人体の構造と機能 各論 V (内臓諸器官の構造)	18
人体の構造と機能 各論 VI (内臓諸器官の機能)	19
人体の構造と機能 演習 (表面解剖)	20
運動学 I (四肢体幹の運動)	21
運動学 II (姿勢と動作)	22
運動学 III (運動生理・運動学習)	23
運動学演習	24
人間発達	25
疾病・病態論	26
地域保健福祉論	27
リハビリテーション概論	28
理学療法概論	29
障害と理学療法手法	30
理学療法評価概論	31
理学療法評価 I	32
理学療法評価 II	33
運動療法 I	34
理学療法総合理解 I	35
総合理学療法 I	36
基本動作支援技術	37
臨床実習 I	38

医療専門課程理学療法学科（夜間課程）

科目区分	授業科目	区分	第一学年		第二学年		第三学年		単位数	時間数		
			単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間	単位数	年間授業時間				
基礎分野	科学的思考の基礎	医学英語Ⅰ	講義	1	16				1	16		
		医学英語Ⅱ	講義					1	16	1	16	
		情報科学・プレゼンテーション	演習	1	30					1	30	
		医療統計	講義					1	16	1	16	
	人間と生活	人体とバイオメカニクス	講義					1	16	1	16	
		医療の歴史と倫理	講義	1	16					1	16	
		関連法規	講義					1	16	1	16	
		理学療法の領域と位置付け	講義	1	16					1	16	
		心理	講義	1	16					1	16	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		人間関係・コミュニケーション論Ⅱ	演習			1	16			1	16	
	社会の理解	保健体育Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		保健体育Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		公衆衛生	講義	1	16					1	16	
基礎合計			8	170	2	32	4	64	14	266		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人体の構造と機能 総論	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅰ（神経系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅱ（神経系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅲ（運動器系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅳ（運動器系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅴ（内臓器系の構造）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 各論Ⅵ（内臓器系の機能）	講義	1	30					1	30	
		人体の構造と機能 演習（表面解剖）	演習	3	48					3	48	
		運動学Ⅰ（四肢体幹の運動）	講義	3	48					3	48	
		運動学Ⅱ（姿勢と動作）	講義	1	30					1	30	
		運動学Ⅲ（運動生理・運動学習）	講義	1	30					1	30	
		運動学演習	演習	1	30					1	30	
		人間発達	講義	1	16					1	16	
		(小計)		17	412	0	0	0	0	17	412	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	疾病・病態論	講義	1	30					1	30	
		臨床心理	講義			1	16			1	16	
		病理	講義			1	16			1	16	
		内科と理学療法	講義	1	30					1	30	
		老年期障害と理学療法	講義	1	16					1	16	
		整形外科と理学療法	講義			3	48			3	48	
		神経内科と理学療法	講義			3	48			3	48	
		精神医学と理学療法	講義					2	30	2	30	
		小児科と理学療法	講義					1	16	1	16	
		一般臨床医学と理学療法	講義			1	30			1	30	
	(小計)		1	30	11	204	3	46	15	280		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域保健福祉論	講義	1	16					1	16	
		リハビリテーション概論	講義	1	16					1	16	
		疾病予防と健康管理	講義					2	30	2	30	
	(小計)		2	32	0	0	2	30	4	62		
	専門基礎分野合計			20	474	11	204	5	76	36	754	
	専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	講義	1	30					1	30
			障害と理学療法手法	講義	2	30					2	30
			臨床運動学	演習			1	30			1	30
			理学療法研究法	講義			2	30			2	30
(小計)				3	60	3	60	0	0	6	120	
理学療法管理学		理学療法管理学	講義					2	30	2	30	
		(小計)		0	0	0	0	2	30	2	30	
理学療法評価学		理学療法評価概論	講義	1	16					1	16	
		理学療法評価Ⅰ	実習	1	44					1	44	
		理学療法評価Ⅱ	実習	1	44					1	44	
		理学療法評価Ⅲ	演習			1	30			1	30	
		理学療法評価Ⅳ	演習			1	30			1	30	
		理学療法評価Ⅴ	実習					1	44	1	44	
(小計)			3	104	2	60	1	44	6	208		
理学療法治療学		運動療法Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		運動療法Ⅱ	演習			2	30			2	30	
		運動療法Ⅲ	演習					1	30	1	30	
		物理療法	演習			1	30			1	30	
		日常生活活動	講義			1	30			1	30	
		日常生活活動演習	演習					3	48	3	48	
		装具学	講義			1	30			1	30	
		義肢学	講義					1	30	1	30	
		疾患別理学療法Ⅰ（骨関節）	演習			3	48			3	48	
		疾患別理学療法Ⅱ（成人中枢）	演習			3	48			3	48	
		疾患別理学療法Ⅲ（神経筋）	演習			3	48			3	48	
		疾患別理学療法Ⅳ（内部障害）	演習					3	48	3	48	
		疾患別理学療法Ⅴ（小児発達障害）	講義					1	16	1	16	
		理学療法演習	実習					1	44	1	44	
		理学療法総合理解Ⅰ	演習	1	30					1	30	
		理学療法総合理解Ⅱ	演習			1	16			1	16	
		理学療法総合理解Ⅲ	演習					1	16	1	16	
		理学療法特論	演習					2	60	2	60	
		総合理学療法Ⅰ	実習	1	30					1	30	
		総合理学療法Ⅱ	実習			1	30			1	30	
総合理学療法Ⅲ	実習					1	44	1	44			
総合理学療法Ⅳ	演習					1	30	1	30			
(小計)		3	90	16	310	15	366	34	766			
地域理学療法	基本動作支援技術	演習	1	30					1	30		
	地域リハビリテーション（地域包括ケア、介護予防）	講義			1	30			1	30		
	生活環境論	講義					1	16	1	16		
(小計)		1	30	1	30	1	16	3	76			
臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習	1	45					1	45		
	臨床実習Ⅱ	実習			9	405			9	405		
	臨床実習Ⅲ（地域リハビリテーション実習）	実習			1	45			1	45		
	臨床実習Ⅳ	実習					9	405	9	405		
	(小計)		1	45	10	450	9	405	20	900		
専門分野合計			11	329	32	910	28	861	71	2100		
必修科目授業合計			39	973	45	1146	37	1001	121	3120		
選択科目授業合計				0		0		0		0		
卒業に必要な総授業時間数			39	973	45	1146	37	1001	121	3120		

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	医学英語 I	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

基礎的な医学用語(筋骨格系、運動方向等の運動学関係、接頭語・接尾語、他)について学習する。

II 到達目標

基礎的な医学用語について、日本語名と英語名を一致させることができる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	医学英語の語源と接頭語・接尾語
3	骨の名称
4	筋の名称
5	動作の表現(運動の面と軸、運動方向、姿勢、他)
6	リハビリテーションチーム、カルテ等に使われる略語
7	理学療法に用いられる用語(疾患名、障害名)
8	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	情報科学・プレゼンテーション	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

情報の取り扱い(情報化社会、個人情報保護等)、基本的なパソコン操作(文書ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等)について習得する。
プレゼンテーションの手法について学習する。

II 到達目標

情報の取り扱いの注意点について説明できる。
上記のソフトを使用して、基本的な書類を作成できる。
簡単なプレゼンテーションが実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	情報とは: 個人情報の取り扱いについて
2	OSとは: PCの諸設定、フォルダの操作、電子メール(仕組みと設定)
3	情報の形とまとめ方: 基本的PC操作
4	情報リテラシー(情報機器、ITネットワークの活用)、情報社会のモラルとセキュリティ
5	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 1
6	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 2
7	文書・レポートの作成方法: 文書作成ソフトの使用方法 3
8	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 1
9	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 2
10	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 3
11	データのまとめ方: 表計算ソフトの使用方法 4
12	文献とは: 文献検索の方法
13	発表の方法と資料の作成方法: プレゼンテーションソフトの使用方法 1
14	発表の方法と資料の作成方法: プレゼンテーションソフトの使用方法 2
15	まとめ

IV 成績評価

授業内演習、課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	医療の歴史と倫理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療の歴史、医療倫理・職業倫理について学習する。

II 到達目標

医療の歴史、医療倫理・職業倫理について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 倫理学とは
2	医療倫理の起源
3	医療倫理の原則①
4	医療倫理の原則②
5	理学療法士法
6	理学療法士における倫理①
7	理学療法士における倫理②
8	理学療法士における倫理③

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	心理	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	鈴木 健司	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

心理の基礎、発達過程における心理面の変化について学習する。

II 到達目標

心理の基礎、発達過程における心理面の変化について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 心理学とは
2	心理学の歴史
3	感覚と知覚
4	記憶(短期・長期・手続き記憶・エピソード記憶・意味記憶・作業記憶)
5	防衛機制・転移
6	パーソナリティ
7	発達段階の心理、ライフサイクル
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人間関係・コミュニケーション論 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介・他	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

社会人、医療従事者になるために必要な心構えや学業へ取り組む姿勢を考え、身につける。またクラスの間関係づくりを進め、学校生活への適応を図る。

II 到達目標

自己理解、他者理解の基本を理解し、他者との関係をどのように構築したらよいか説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 人間関係とは
2	人間の心理 パーソナルスペースの使い方
3	人間関係と医療現場 コミュニケーションとは 1
4	人間関係と医療現場 コミュニケーションとは 2
5	コミュニケーション(話し方・聴き方) 1
6	コミュニケーション(話し方・聴き方) 2
7	人間関係・コミュニケーション演習①
8	人間関係・コミュニケーション演習②
9	人間関係・コミュニケーション演習③
10	人間関係・コミュニケーション演習④
11	人間関係・コミュニケーション演習⑤
12	人間関係・コミュニケーション演習⑥
13	人間関係・コミュニケーション演習⑦
14	人間関係・コミュニケーション演習⑧
15	メンタルヘルス

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	保健体育 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	高橋 範行 他	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

グループ活動の実践を通して、心身の健康、主体的な行動、計画性、グループとしての連帯性について学習する。

II 到達目標

グループ活動を実践し、グループのメンバーと連帯して行動できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション(全体の流れ)
2	保健体育演習 I-1
3	保健体育演習 I-2
4	保健体育演習 I-3
5	保健体育演習 I-4
6	保健体育演習 II-1
7	保健体育演習 II-2
8	保健体育演習 II-3
9	保健体育演習 II-4
10	保健体育演習 III-1
11	保健体育演習 III-2
12	保健体育演習 III-3
13	保健体育演習 III-4
14	保健体育演習 III-5
15	保健体育演習 III-6

IV 成績評価

課題レポートにより評価する

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	公衆衛生	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

社会環境や社会制度との関係を意識し、社会と理学療法との関係について学修する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	公衆衛生の歴史と健康のとらえ方・平均余命と寿命・健康寿命
2	予防医学・行動変容
3	公衆衛生と人口
4	社会保障制度
5	感染症(分類・経路・法律)
6	感染症(主要感染症・食中毒)
7	感染症(標準予防策・院内対策)
8	健康日本21・健康増進法・産業保健

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 総論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

人体の解剖および生理的仕組みの基礎について学習する。
人体の発生および細胞の成り立ちについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 解剖学・生理学とは
2	感覚器について
3	脳と神経について
4	消化器について
5	呼吸器について
6	循環器について
7	運動器について①
8	運動器について②
9	前半のまとめ
10	細胞小器官
11	細胞の種類と機能
12	代謝、生体内の化学反応
13	遺伝① 細胞分裂と発生
14	遺伝② 染色体、遺伝子
15	後半のまとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)
基礎運動学 第7版(医歯薬出版)
配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅰ (神経系の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

中枢神経系の構造と機能について学習する。
感覚諸器官(皮膚を含む)の構造について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	神経系の概要
2	脊髄の構造と機能
3	脳幹の構造と機能
4	小脳の構造と機能 間脳の構造と機能
5	大脳の構造と機能1 大脳皮質 大脳基底核
6	大脳の構造と機能2 辺縁系
7	大脳の構造と機能3 高次脳機能
8	
9	運動の伝導路 感覚の伝導路
10	神経核
11	運動制御
12	神経細胞 神経線維の分類
13	神経伝達
14	脳血管 脳脊髄液
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)
配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅱ (神経系の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

末梢神経系の構造と機能について学習する。
 感覚諸器官(皮膚を含む)の構造と機能について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	中枢神経と末梢神経の働き
2	脳神経① I 嗅神経～VI 外転神経
3	脳神経② VII 顔面神経～XII 舌下神経
4	脊髄神経① 頸神経叢、腕神経叢
5	脊髄神経② 腰神経叢、仙骨神経叢
6	脊髄神経③ 体肢、髄節
7	自律神経 交感神経①
8	自律神経 交感神経②
9	自律神経 副交感神経①
10	自律神経 副交感神経②
11	神経線維の構造と機能 伝導と伝達、活動電位
12	感覚器① 皮膚の構造と感覚受容器 体性感覚の構造と機能
13	感覚器② 特殊感覚器の構造と機能(嗅覚、視覚)
14	感覚器③ 特殊感覚器の構造と機能(聴覚、平衡覚、味覚)
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)
 配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅲ (運動器系の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

運動器(骨格系、筋系)の構造について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動器の概観 運動器の構成要素、関節運動におけるテコの作用、全身の骨格(名称)
2	骨の構造 組織構造、骨吸収と骨形成、Ca代謝、P吸収
3	骨量と運動、骨の成長・維持と修復、骨粗鬆症
4	骨の連結と運動 骨の連結、関節の構造、関節の形状、関節運動
5	上肢(1) 上肢帯、上腕骨と肩関節
6	上肢(2) 肘関節 前腕の骨と3つの関節
7	上肢(3) 手関節と手部、手根骨～指骨
8	上肢(4) まとめ
9	体幹(1) 脊柱の構造
10	体幹(2) 胸郭の構造
11	体幹(3) 頭蓋の構造
12	下肢(1) 下肢帯、大腿骨と股関節
13	下肢(2) 膝関節、下腿の骨
14	下肢(3) 足関節と足部、足根骨～趾骨、足弓
15	下肢(4) まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)
配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅳ (運動器系の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	安岡 裕輔	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

運動器の機能(筋収縮のメカニズム、筋の神経支配を含む)について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	筋の概要
2	筋の構造 骨格筋と平滑筋
3	筋の機能 赤筋と白筋
4	骨格筋の微細構造と収縮メカニズム
5	筋の収縮様式と運動単位
6	上肢帯(肩甲帯、肩関節) 作用する筋と運動
7	肘関節 作用する筋と運動
8	手・手関節 作用する筋と運動
9	上肢のまとめ
10	下肢帯(股関節) 作用する筋と運動
11	膝関節 作用する筋と運動
12	足・足関節 作用する筋と運動
13	下肢のまとめ
14	体幹・脊柱と胸郭の筋
15	頭部・顔面の筋

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第7版(医歯薬出版) 人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)
配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論Ⅴ (内臓諸器官の構造)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	土屋 稔	担当教員	土屋 稔

I 教育目標

内臓諸器官(主に循環器系、呼吸器系、および血液系)の構造と機能について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	呼吸器の構造1
2	呼吸器の構造2
3	呼吸器の機能1
4	呼吸器の機能2
5	呼吸器の機能3
6	循環器の構造1
7	循環器の構造2
8	循環器の構造3
9	循環器の機能1
10	循環器の機能2
11	循環器の機能3
12	リンパ系の構造
13	リンパ系の機能
14	血液系の構造と機能
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)
配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 各論VI (内臓諸器官の機能)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

内臓諸器官(主に消化器、泌尿器、生殖器)、および内分泌器の構造と関連した生理機能について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	消化管の構造
2	消化管の機能1
3	消化管の機能2
4	肝臓・胆嚢の構造
5	肝臓・胆嚢の機能
6	膵臓の構造と機能
7	腎臓の構造
8	腎臓の機能
9	尿管・膀胱・尿道の構造と機能
10	生殖器の構造
11	生殖器の機能
12	免疫系の構造と機能
13	内分泌の構造
14	内分泌の機能
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第5版(日本医事新報社)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人体の構造と機能 演習 (表面解剖)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

学習した人体の構造と機能について、骨指標、筋、血管、神経等を体表から観察、触察し再学習する。体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

基本的な骨指標、筋、血管、神経等を触察できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論、臨床的意義、触診の基礎 注意点・触診方法	16	体幹株の筋
2	肩甲骨・上腕骨・鎖骨	17	上肢の靭帯・動脈等
3	主要な骨指標の触診1 上肢帯・上肢①	18	下肢の靭帯・動脈等
4	主要な骨指標の触診2 上肢帯・上肢②	19	MMTと筋の触診(上肢)
5	主要な骨指標の触診3 下肢帯・下肢①	20	MMTと筋の触診(下肢)
6	主要な骨指標の触診4 下肢帯・下肢②	21	MMTと筋の触診(体幹)
7	主要な骨指標の触診5 脊柱・手部・足部	22	上肢 触察のまとめ
8	上肢帯の筋	23	下肢 触察のまとめ
9	肩関節周囲の筋	24	体幹 触察のまとめ
10	肘関節・前腕の筋		
11	手部の筋 まとめ(体幹・上肢)		
12	股関節に作用する筋		
13	膝関節に作用する筋		
14	足関節に作用する筋		
15	体幹上部の筋		

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書・その他

人体の正常構造と機能 改訂第4版(日本医事新報社)
【改訂第6版】ボディナビゲーション(医道の日本社)

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目 運動学Ⅰ (四肢体幹の運動)	単位・時間数	3単位・48時間
	講師 森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

関節の種類と構成要素、関節運動のメカニズムについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	総論(運動学とは)、運動学の基礎	16	脊柱の筋と運動(2)
2	関節の運動(構造と機能)	17	頸椎・胸椎の筋と運動、胸郭の筋と運動
3	上肢帯と肩関節の筋と運動(1)	18	腰椎の筋と運動(1)
4	上肢帯と肩関節の筋と運動(2)	19	腰椎の筋と運動(2)
5	肘関節と前腕の筋と運動	20	頭部・頸部の筋と運動(1)
6	手関節の筋と運動	21	頭部・頸部の筋と運動(2)
7	手指の筋と運動(1)	22	関節の副運動、凹凸の法則
8	手指の筋と運動(2)	23	歩行の基礎
9	下肢帯と股関節の筋と運動(1)	24	まとめ
10	下肢帯と股関節の筋と運動(2)		
11	膝関節の筋と運動(1)		
12	膝関節の筋と運動(2)		
13	足関節の筋と運動(1)		
14	足関節の筋と運動(2)		
15	脊柱の筋と運動(1)		

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第7版(医歯薬出版)

配布資料

参考資料: 身体運動学 関節の制御機構と筋機能(メジカルビュー社)

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動学Ⅱ (姿勢と動作)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

基本動作のメカニズム、姿勢制御・運動制御のメカニズムについて学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	姿勢 支持基底面
2	背臥位姿勢
3	座位姿勢
4	立位姿勢(1) 姿勢制御
5	立位姿勢(2)
6	体圧分散測定:背臥位、座位、立位
7	体圧分散測定:背臥位、座位、立位
8	姿勢と重心
9	基本動作のシーケンス
10	寝返り動作
11	起き上がり動作
12	立ち上がり動作
13	歩行(1)
14	歩行(2)
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第7版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目 運動学Ⅲ (運動生理・運動学習)	単位・時間数	1単位・30時間
	講師 高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

運動時における生体反応およびエネルギー代謝、摂食嚥下のメカニズム、運動処方^①の基礎、運動学習の理論と過程について学習する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動生理とは 呼吸・循環・代謝の関係性
2	運動と呼吸機能
3	運動と循環機能
4	運動と栄養① 消化と吸収
5	運動と栄養② 栄養素
6	運動とエネルギー代謝① ATP産生、呼吸商
7	運動とエネルギー代謝② 基礎代謝、エネルギー代謝率
8	運動とエネルギー代謝③ 代謝当量
9	運動処方① 体力とは 無酸素性エネルギー
10	運動処方② 有酸素性エネルギー、運動処方
11	運動負荷試験
12	自覚的運動強度、運動訓練の原理
13	運動技能と運動学習①
14	運動技能と運動学習②
15	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動学演習	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	高橋 範行 他	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

人体の構造と機能、運動学Ⅰ～Ⅲで学習した内容について、実験的考察を踏まえ再学習する。体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

上記の内容について実験的考察を行い、説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	心電図1
2	心電図2
3	エネルギー代謝1
4	エネルギー代謝2
5	運動処方1
6	運動処方2
7	運動処方3
8	運動処方4
9	演習1
10	演習2
11	演習3
12	演習4
13	演習5
14	演習6
15	演習7

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	人間発達	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

ライフステージを通じた人間理解のため、胎児期～老年期の発達過程について学習する。

II 到達目標

各ライフステージにおける発達過程について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	身体的発達
3	反射・反応(1)
4	反射・反応(2)
5	反射・反応(3)
6	粗大運動・巧緻運動
7	精神的・知的発達
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	疾病・病態論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	渡邊 洸太	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

リハビリテーション・理学療法の対象となる疾病の成り立ちおよび病態の概要について学習する。

II 到達目標

学習した疾病について、疾病の成り立ちおよび病態の概要を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	脳血管障害(概要)
2	脳血管障害(診断・治療)
3	脳血管障害(障害像)
4	脳血管障害(障害像)
5	脳血管障害(リハビリテーション)
6	脳挫傷・脳性麻痺
7	脊髄損傷・二分脊椎
8	神経筋疾患(パーキンソン病)
9	神経筋疾患(脊髄小脳変性症・多発性硬化症)
10	神経筋疾患(筋萎縮性側索硬化症・筋ジストロフィー)
11	末梢神経障害(絞扼性ニューロパチー・ギランバレー症候群・シャルコーマリートゥース病)
12	骨関節疾患(股関節疾患・膝関節疾患)
13	骨関節疾患(足関節疾患・脊椎疾患)
14	内部障害(呼吸器疾患・循環器疾患)
15	内部障害(代謝疾患)・認知症・まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	地域保健福祉論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	田中 靖子	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

社会保障制度の種類と歴史、医療・保健・福祉とリハビリテーションの関係、地域包括ケアシステム、多職種連携等について学習する。

II 到達目標

上記内容について理解し、地域におけるリハビリテーションの役割について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	社会保障の概念、社会保障の歴史、福祉六法
2	介護保険制度、社会福祉援助技術(ケースワーク)
3	介護保険施設、通所施設、訪問型サービス
4	地域と理学療法の関係、地域包括ケアシステム
5	医療・保健・福祉と他職種連携(チーム医療)
6	在宅生活の継続を支援する(通所施設、訪問理学療法)、入所施設の重要性・援助関係
7	エンパワーメント、地域リハビリテーションの対象、地域・在宅で普通の生活を送る方法
8	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	リハビリテーション概論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	新井 啓介	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

理学療法士として、リハビリテーションの概念を学び障害のとらえ方を理解して欲しいと思います。そして、理学療法士としての基礎を培って頂きたいと思います。

II 到達目標

リハビリテーション、理学療法士について説明ができるようになって頂きたいと思います。また、医療専門職として対象者を“支える”思考の基礎が少しでも身につけられる事を期待しています。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション、リハビリテーションとは(考え方の変遷)
2	総合リハビリテーション(医学的・教育的・職業的・社会的・その他)
3	地域リハビリテーション(住み慣れた地域でその人らしく生きる)
4	医学的リハビリテーション(超急性期・急性期・回復期・維持期)
5	理学療法(物理療法・運動療法)と理学療法士
6	障害とその分類①(ICD・ICIDH)
7	障害とその分類②(ICF)、医療記録(POMR)
8	まとめ

IV 成績評価

課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法概論	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	森田 敬介・他	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

理学療法の概要、役割、過程、職能等について、臨床場面を想定して学習する。
理学療法士を目指す学生としてふさわしい基本的な態度について考察する。

II 到達目標

上記内容に対して体験を通して理学療法について理解を深める。
臨床実習を想定し理学療法士を目指す学生としてふさわしい態度・行動を取れる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション
2	理学療法の過程と臨床実習
3	理学療法の生涯学習
4	理学療法治療介入見学時の心構え
5	理学療法で使用する機器について1
6	理学療法で使用する機器について2
7	回復期、維持期の施設およびリハビリテーション見学
8	回復期、維持期の施設およびリハビリテーション見学
9	回復期、維持期の施設およびリハビリテーション見学
10	回復期、維持期の施設およびリハビリテーション見学
11	理学療法臨床推論1
12	理学療法臨床推論2
13	理学療法臨床推論3
14	理学療法臨床推論4
15	まとめ

IV 成績評価

授業内演習、課題レポートにより評価する。

V 教科書・その他

必要に応じて資料を配布する。

2026年 医学アカデミー理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	障害と理学療法手法	単位・時間数	2単位・30時間
	講師	渡邊 孝広	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

理学療法の対象となる機能障害の病態・メカニズムと理学療法の関係について学習する。
理学療法手法の概要について学習する。

II 到達目標

上記の内容について説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	姿勢制御1
2	姿勢制御2
3	姿勢制御 3
4	歩行1
5	歩行2
6	スポーツリハビリテーション1
7	スポーツリハビリテーション2
8	運動学習1
9	運動学習2
10	関節運動1
11	関節運動2
12	筋収縮と筋力1
13	筋収縮と筋力2
14	持久力
15	運動療法概論

IV 成績評価

課題レポートおよび学力試験により評価する。

V 教科書・その他

基礎運動学 第7版(医歯薬出版)
Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法評価概論	単位・時間数	1単位・16時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

理学療法評価の基礎(評価過程、記録方法等)を学習する。
バイタルサイン(血圧、脈拍、呼吸数等)の確認方法を習得する。

II 到達目標

理学療法評価の過程、記載方法について説明できる。
バイタルサインが確認できる。

III 学習内容(シラバス)

1	評価の意義・目的
2	観察・情報収集について
3	検査・測定について
4	統合と解釈(情報の整理)
5	バイタルサイン 演習1
6	バイタルサイン 演習2
7	バイタルサイン 演習3
8	バイタルサイン 演習4

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法評価 I	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	森田敬介 他	担当教員	森田 敬介

I 教育目標

機能形態計測(四肢長、周径等)を習得する。
 関節可動域制限と関連要因に対する評価を習得する。
 疼痛(急性痛、慢性疼痛)に対する評価を習得する。

II 到達目標

機能形態計測、関節可動域測定、疼痛に関する評価について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション	16	関節可動域測定⑩
2	検査測定の進め方	17	痛みの評価
3	四肢長・周径①	18	脳神経検査①
4	四肢長・周径②	19	脳神経検査②
5	四肢長・周径③	20	脳神経検査③
6	四肢長・周径④	21	脳神経検査④
7	関節可動域測定①	22	まとめ
8	関節可動域測定②		
9	関節可動域測定③		
10	関節可動域測定④		
11	関節可動域測定⑤		
12	関節可動域測定⑥		
13	関節可動域測定⑦		
14	関節可動域測定⑧		
15	関節可動域測定⑨		

IV 成績評価

学力試験(実技試験)により評価する。

V 教科書・その他

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法評価Ⅱ	単位・時間数	1単位・44時間
	講師	新井啓介 他	担当教員	新井 啓介

I 教育目標

神経学的所見(反射異常、筋緊張異常等)に対する評価を習得する。
筋力低下に対する評価を習得する。
感覚異常に対する評価を習得する。

II 到達目標

反射検査、筋緊張検査、筋力検査、感覚検査について説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション	16	徒手筋力検査⑦
2	深部腱反射・病的反射検査①	17	徒手筋力検査⑧
3	深部腱反射・病的反射検査②	18	徒手筋力検査⑨
4	深部腱反射・病的反射検査③	19	徒手筋力検査⑩
5	筋緊張検査①	20	徒手筋力検査⑪
6	筋緊張検査②	21	検査測定手順 演習
7	感覚検査①	22	まとめ
8	感覚検査②		
9	感覚検査③		
10	徒手筋力検査①		
11	徒手筋力検査②		
12	徒手筋力検査③		
13	徒手筋力検査④		
14	徒手筋力検査⑤		
15	徒手筋力検査⑥		

IV 成績評価

学力試験(実技試験)により評価する。

V 教科書・その他

理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)
ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂)
新・徒手筋力検査法 原著第10版(エルゼビア・ジャパン)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	運動療法 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	高橋 範行	担当教員	高橋 範行

I 教育目標

関節可動域制限に対する運動療法を習得する。
筋力低下に対する運動療法を習得する。
体力評価及びトレーニングに関わる基礎的な知識を学ぶ。

II 到達目標

関節可動域運動を説明、実践できる。
筋力増強運動を説明、実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	運動療法の歴史・概念・位置付け
2	運動療法の種類と適応、組織の病態生理と修復
3	関節可動域運動 1 関節の構造と運動、関節運動の制限、拘縮と強直
4	関節可動域運動 2 上肢帯・肩関節
5	関節可動域運動 3 肘関節・前腕・手関節
6	関節可動域運動 4 股関節・膝関節
7	関節可動域運動 5 足関節・足部・体幹
8	関節可動域運動 6 器具を用いた方法
9	筋力維持増強運動 1 筋収縮のメカニズム、筋収縮の種類、筋線維の分類
10	筋力維持増強運動 2 筋肥大のメカニズム、過負荷の法則、OKCとCKC
11	筋力維持増強運動 3 上肢
12	筋力維持増強運動 4 下肢
13	筋力維持増強運動 5 体幹
14	筋力維持増強運動 6 器具を用いた方法
15	まとめ

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

Crosslink理学療法学テキスト 運動療法学(メジカルビュー社)
配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	理学療法総合理解 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	田中 靖子・他	担当教員	田中 靖子

I 教育目標

3年間の学習の流れや1年次に学習する基礎分野について理解する。

II 到達目標

人体の正常構造、機能を理解するとともに異常についても理解を深める。
理学療法に必要な基礎知識を理解し、各科目の要点を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション1(学びの全体像)
2	オリエンテーション2(学習の進め方)
3	基礎医学1 1年生上半期の学習①
4	基礎医学2 1年生上半期の学習②
5	理学療法士としての疾病や障害の理解1
6	理学療法士としての疾病や障害の理解2
7	演習1
8	演習2
9	基礎医学3 1年生下半期の学習①
10	基礎医学4 1年生下半期の学習②
11	国家試験について1
12	国家試験について2
13	国家試験について3
14	まとめ1(2年次の学習に向けて)
15	まとめ2(2年次の学習に向けて)

IV 成績評価

学力試験により評価する。

V 教科書・その他

配布プリント等

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	総合理学療法 I	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	杉田 貴寛・他	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

臨床実習 I の事前・事後学習として1年次の学習内容を深める。
臨床での理学療法の具体的な手順と方法を学習する。

II 到達目標

臨床実習 I に必要な事前準備が実践できる。
臨床実習 I での体験を基に臨床での理学療法の進め方を具体的に説明できる。

III 学習内容(シラバス)

1	オリエンテーション 臨床実習について 臨床実習に必要な接遇
2	理学療法の処方から治療までの流れ
3	情報収集について①(基礎情報・医学的情報情報・社会的情報)
4	他部門の専門性と情報収集
5	医療面接について
6	理学療法検査測定について
7	統合と解釈 問題点抽出(ICF、ICIDH)について
8	目標設定 理学療法治療介入計画立案について
9	学生紹介書の作成について
10	臨床実習 I 手引きの理解と実習計画について
11	実習課題について ①デイリーノート ②実習内容報告書(レポート)
12	臨床実習 I 実習内容発表会①
13	臨床実習 I 実習内容発表会②
14	臨床実習 I 実習内容発表会③
15	臨床実習 I 実習内容発表会④

IV 成績評価

課題レポートおよび発表により評価する。

V 教科書・その他

標準リハビリテーション医学 第4版(医学書院)
理学療法評価学 第6版補訂版(金原出版)

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	基本動作支援技術	単位・時間数	1単位・30時間
	講師	岡村 洋克	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

起居・移動・移乗動作の基礎、介助方法、動作を引き出す方法について学習する。

II 到達目標

動作の基礎を理解し、基本的な介助方法が実践できる。

III 学習内容(シラバス)

1	基本動作介助法1 姿勢(体位と構え)とは、基本動作とは、介助の心得、介助と介護の違い
2	基本動作介助法2 寝返り
3	基本動作介助法3 起き上がり
4	基本動作介助法4 端座位、靴の着脱、座位からの立ち上がり
5	基本動作介助法5 床からの立ち上がり
6	基本動作介助法6 立位
7	移乗動作介助法1 車椅子への移乗、ステップ動作あり・なし
8	移乗動作介助法2 一部介助から全介助
9	移乗動作介助法3 疾患(片麻痺、大腿骨頸部骨折)を想定した介助
10	歩行介助法1 杖の種類・選定・調節方法、短下肢装具(AFO)の装着介助
11	歩行介助法2 前方・後方・側方介助の方法
12	歩行介助法3 階段(段差)昇降の介助
13	車椅子介助法1 車椅子の名称・種類、メンテナンスや調整方法
14	車椅子介助法2 走行介助(平地、段差、スロープ・坂道、エレベーター乗車)
15	車椅子介助法3 車椅子座位姿勢の修正介助(ずり落ち、傾斜姿勢)

IV 成績評価

実技試験により評価する。

V 教科書・その他

配布プリント

2026年 医学アカデミー—理学療法学科 夜間課程

1学年	科目	臨床実習 I	単位・時間数	1単位・45時間
	講師	杉田 貴寛	担当教員	杉田 貴寛

I 教育目標

医療施設等において理学療法介入を見学し、理学療法についての理解を深める。
対象者との接遇について体験を通して学習する。

II 到達目標

理学療法介入見学について記録を作成できる。
対象者との接遇について注意点および工夫を説明できる。

III 学習内容(シラバス)

学校が指定した医療機関等で5日間の見学実習を行う。

※詳細は臨床実習 I 手引きに基づき説明する。

IV 成績評価

実習指導報告書、デイリーノート、見学・体験報告書等を総合的に判断して評価する。

V 教科書・その他

臨床実習 I 手引き

【メモ】

学校法人医学アカデミー
医学アカデミー 理学療法学科
〒350-1138 埼玉県川越市中台元町1丁目18番地1
TEL. 049-245-6853(教務直通)
e-mail. info@iapt.igakuacademy.ac.jp